

おしゃれの夢かなったよ

入院患者がファッションショー（長良医療センター）

長良医療センター（岐阜市長良）に入院する重度の障害のある患者のために、名古屋ファッション・ビューティー専門学校（名古屋市）の学生が手作りの洋服をプレゼントした。完成した服を披露するファッションショーが同センターで開かれ、患者たちはうれしそうに世界に一つだけの服に袖を通した。

脳性まひなど重度の心身障害で体が硬直し、ジャージなどを着ることが多い患者に、好きなファッションを楽しんでもらおうと、センターのスタッフが企画したのがきっかけ。毎年同学校の学生が服の制作を手掛けており、今回で7回目を迎えた。

今回は、学生17人が20～50代の男女3人の服を制作。昨年11月から、患者に要望を聞きながら、採寸やデザイン画の作成、縫製に取り組んだ。

ショーの前に学生たちは3人に完成した服をプレゼント。スタッフらに見守られる中、着替えた3人

は学生に車椅子を押してもらって花道を進み、「かっこいい」などと歓声を浴びていた。

筋ジストロフィーを患い5年前から入院する富澤壮馬さん（22）は、好きなアニメに登場する少女をイメージした服を学生たちに注文。伸縮性のあるニット生地にはピンク色のリボンをあしらったセーラー服で登場し、スタッフを沸かせた。

アニメの登場人物になりきる念願の「コスプレ」を堪能した富澤さんは「気に入ってる」と満足そう。母由美子さん（49）も「想像以上にかわいい」と笑顔を見せた。

富澤さんの服を手掛けた小林愛実さん（21）＝名古屋市＝は「苦労もあったが、着る人と直接向き合って服を作る貴重な体験ができた」と話した。

（岐阜新聞・岐阜 2017年2月14日）